



RYUKOKU
UNIVERSITY

You, Unlimited



広報誌「龍谷」

2022 93
VOLUME

国際学部 前田 滉太さん

Ryukoku

Brand Story

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。

龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited



- 01** P01
Feature Article
巻頭特集 学長対談
「MINAMATA」は地球環境問題の原点
写真家 環境ジャーナリスト 龍谷大学学長
アイリーン・美緒子・スミス × 入澤 崇
- 02** P06
Ryukoku News
龍谷大学の将来像を具現化した
「心理学部」が新たに誕生(仮称・設置構想中)
- 03** P10
People, Unlimited
誰もが集えてホッとできる居場所
利他の心で繋ぐ「café rita (カフェリタ)」
前田 滉太 さん 国際学部
- P12
みんなで考える生理
学生の提言がムーブメントに
大木 優芽 さん 文学部
- P14
水田転換畑で作るラッカセイ「おおまさり」に
新たな可能性を込めて
塔原 百花 さん 農学部
- 04** P16
Education, Unlimited
グローバルの本質をリアルに学ぶ
グローバル・キャリア・チャレンジプログラム(GCCP)
久松 英二 教授 国際学部
グローバル教育推進センター長
松永 敬子 教授 経営学部
キャリアセンター長
- P20
『もったいない』食品ロス問題を考え
自ら動き解決を探るアクティブ・ラーニング
牛尾 洋也 教授 法学部
- 05** P24
Research, Unlimited
文化遺産の医者として
次の100年に繋ぐ修復を
北野 信彦 教授 文学部
- P28
琵琶湖の未来に向けた水質改善を
数理モデルで提示
岸本 直之 教授 先端理工学部
- 06** P32
Event Ryukoku Museum
仏弟子たちが勢ぞろい
幻の展覧会、2年越しの開幕
岩田 朋子 龍谷ミュージアム学芸員
- 07** P34
Connect, Unlimited
龍谷大学をつなぐ対談
心に寄り添う臨床現場での橋渡し
臨床宗教師 文学部 真宗学科
田中 至道 さん × 森田 敬史 教授
- 08** P38
News & Topics
最新情報
- 09** P42
Book Café
新刊紹介
- 10** P44
My Campus
マイキャンパス

01

Feature Article 巻頭特集 学長対談

写真家 環境ジャーナリスト アイリーン・美緒子・スミス × 龍谷大学学長 入澤 崇



「MINAMATA」は地球環境問題の原点

Feature Article

People, Unlimited

Education, Unlimited

Research, Unlimited

Connect, Unlimited

News & Topics



アイリーン・美緒子・スミス

写真家で元夫の故W.ユージン・スミスさん(1918~78年)とともに1971~74年まで熊本県水俣市に移り住み水俣病患者の惨状を写真に記録。1975年に写真集「MINAMATA」を出版。1983年コロンビア大学で環境科学の修士号取得。1991年環境市民団体「グリーン・アクション」(京都市左京区)を設立。日本各地と海外の市民グループを連携し、プルトニウム政策を含む日本の原子力政策に終止符を打つ活動を続け、現在に至る。

1956年、熊本県水俣市で発生した公害病「水俣病」を世界に伝えた写真集「MINAMATA」を学生時代に見て衝撃を受け、以来、教育者としてだけでなく、人生の土台に据えている入澤学長。この写真集を写真家ユージン・スミス氏と共同制作したアイリーン・美緒子・スミスさんと念願の対談が実現した。

入澤:水俣病の公式確認から65年を迎えるにあたって、2021年、写真集の再出版と、写真集を基にした映画『MINAMATA—ミナマター』（配給ロングライド、アルバトロス・フィルム）が公開されました。私も写真集を改めて拝見し、映画を鑑賞したのですが、地球環境が問題になっている今こそ、水俣の問題を見つめ直す必要があると強く感じました。

アイリーン:水俣病は終わっていません。国との訴訟は未だ続いています。高度経済成長の負の遺産ともいわれますが、決して過去の問題ではなく、今、取り組むべき課題です。水俣病は化学会社チッソが流したメチル水銀が引き起こしたのですが、真の原因は汚染物質ではありません。環境破壊といった公害は人の心の表れです。

入澤:龍谷大学では、脱炭素をめざす「カーボンニュートラル宣言」を発出するなど、全学で環境問題に取り組んでいます。戦後の高度経済成長期以降、現在も経済成長が第一に掲げられています。しかし、その経済成長を志す人間の心の問題を見つめ直さないことには、第二、第三の水俣が生まれてしまいます。だからこそ、水俣の問題は、環境問題に取り組むにあたってはもちろん、これから社会に出る学生が最初に学ぶべきもののなのです。そのため、学生をはじめとする若い世代には出版された写真集と同じようなインパクトを与え

る機会、例えば学内で映画『MINAMATA—ミナマター』の鑑賞会をするといった機会を設けたいと考えています。

アイリーン:水俣の問題も会社の利益優先で、自分たちの行為が命を奪うことに目を向けていませんでした。自然環境に対しても人間を中心に据えているから、破壊や消滅を招いたのですよね。億年の単位で形成されてきた石油や石炭を短期間で使うに使う、急に「脱炭素」と炭素の方を悪者のように仕立てたのは人間です。だからこそ、人と人、人と自然とをもう一度繋ぎ直さなければならないし、人の意識と行動を変えるパラダイムシフトが必要です。

入澤:親鸞聖人は「煩惱」を直視しました。「煩惱具足の凡夫」である親鸞聖人の自己認識を水俣問題にあてはめると「自己の内にチッソはある」となるでしょう。自己利益追求、環境破壊、弱者排除は人間の「自己中心性」の表われです。本学の建学の精神は己の自己中心性と向き合わせるものです。阿弥陀如来の誓願のはたらきを通して自分の自己中心性が顛倒となっていき、硬直した考えから解放されます。人間の内なる闇を照らし出す教えに導かれると、生き方や考え方が変わってきます。自分のあり方を常に省みて、自分の営みは人の命や環境に負荷をかけていやしいかと考える素地が生まれてきます。

アイリーン:写真集の再出版と映画公開を機に私は若い人たちと話す機会が増えました。はじめは水俣の問題がどう受け入れられるのか懸念もありましたが、「何かしたくなった、何ができるのか」と言われうれしく思いました。そのような思いや問いに応えられる自分になるのが今の私の課題だと思っています。

入澤:おふたりの写真集の序文に『気づかせることがわれわれの唯一の強さである』とあり、水俣の問題は事あるごとに伝えているのですが、私が想像している以上に、学生たちは環境問題の深刻さに気づいています。例えば2021年12月には学生が主体となって「龍谷大学学生気候会議」が開催されました。彼らにとっては、自分たちの未来がかかっているわけですから、その声は本気なんですよ。

アイリーン:そうですね。環境問題をはじめ、現代社会の負の遺産はとてつもなく大きいのに、大人は今もって問題を先送りにして「シワ寄せは次の世代の皆さんにお任せします」ではあまりにも無責任ですよ。若い人たちには「ちょっと待ってよ。そんなものを背負わされても困る。あなたたちが何かできるうちに責任を取りなさい」と、大人を叱り、解決に繋がるアイデアもどんどんフィードバックしてほしいです。私自身も21歳から長く水俣に関わっていることもあって、問題は当たり前のように感じていたのですが、違う世代や視点からの反応に改めて気づき、学ぶことは非常に大切だと思いました。過去を捨てるとか、変えるとかいう意味ではなく、若い人たちの繋がり、交流を通じて自らをどんどんリニューアルしながら伝えていきたいですね。

入澤:責任という点で、私はユージン・スミスさんの「客観なんてない。人間は主観でしか物を見られない。だから自分の主観に責任を持つことだ」という言葉が大変印象に残っています。おふたりは水俣の現実を自分自身のフィルターを通して見て、責任を持って世界に発表されたわけです。ユージンさんの言葉は仏教にも通じていて、学生時代の私は人生を変えるほどの衝撃を受けたのですが、おふたりが背負う責任、姿勢が伝わるから、今の若

い世代にも受け止められるのだと思います。しかも彼らは自分たちの未来にかかわる環境問題に対して何かできることはないかと目を光らせています。Education(教育)の本領は学生から潜在しているものを引き出すことです。水俣問題を伝えることで、学生の思いを引き出し、行動に繋がるプラットフォームを作り出すことも私たち教育者の責務であると考えています。

アイリーン:確かに水俣問題も封印してしまっただけでは話にならず、伝え繋げることが重要です。みんなで繋がっていくことはアメンバーのような広がりや相乗効果を生み出し、わき起こるアクションが環境問題だけでなく、社会にも大きな影響を与えたいと思います。

入澤:龍谷大学では「SDGs(持続可能な開発目標)」と「摂取不捨(すべての者をおさめとって見捨てない)」という仏教の教えを接合した「仏教SDGs」に取り組んでいます。環境問題をはじめ、持続可能な社会に向けて、学生たちは様々なアクションを起こしてくれています。

アイリーン:SDGsは「時代、人間の新しいドラマの始まり」と私は思っています。経済発展してきた人類の長い歴史や文化では、他者を踏み台にして得をする損得勘定で常に利益獲得が最優先にされてきました。ところが、やればやるほどみんなが幸せになれる、同時に地球環境が良くなる、そういった経済活動、方法や行動を実現していくことは、これまでになかったことです。これって、すごいドラマだと思いませんか。自分のハッピーが他者や地球環境を含むすべてのハッピーになる。これをみんなでどう実現していくのか。大変なことですが、とてもワクワクしています。

入澤 崇

龍谷大学学長。1955年広島県因島生まれ。龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。専門は仏教文化学。1990年文学部仏教学科に着任。ベゼクリク石窟壁画の復元事業や数多くの仏教遺跡調査に従事。2004年から5年間アフガニスタン仏教遺跡学術調査隊の隊長を務める。龍谷ミュージアム館長、文学部長を経て、2017年4月に学長就任。



More United

More Empowered



RYUKOKU
UNIVERSITY

心のつながりを探究し、社会に力を生み出す。

誰もが自分らしく生き、支え合える社会を実現するために
人と人とのつながりを深く理解し、共に行動する人間を育む。

龍谷大学心理学部は、人間関係の大切さを探究することによって
現代社会の課題を解決に導き、共に歩み続ける未来を拓いていきます。



龍谷大学の将来像を具現化した 「心理学部」が新たに誕生(仮称・設置構想中)

混迷する社会の要請に応える

2023年4月、龍谷大学は新しく「心理学部」の開設を予定している(設置構想中)。ここ数年、数多くの大学において心理学部の強化、新設が図られているのだが、心理学部設置委員会委員長を務め、構想を進めてきた安藤徹委員長は「龍谷大学の心理学部は他と一線を画す学部になると思います」と自信を見せる。その理由と学部の特徴、狙いを聞いた。

「めまぐるしく変化し続ける今、人も社会も地球環境もありとあらゆる課題を抱えています。そこへきて新型コロナウイルス感染症によって先の見えない不安が蔓延し、また新たな社会課題や心理的に困窮する人の存在が浮き彫りになりました。龍谷大学は2012年から文学部に臨床心理学科を有し、優秀な人材を育成、輩出し、社会と人々に貢献してきました。その教育実績をさらに高め、これまで以上に必要とされる心理学の専門性によって一人ひとりの心に寄り添う、複雑かつ多様化する課題に向き合い、より良い社会、未来に寄与できる人材を育成することが本学の責務であると考え、これまでの臨床心理学科を発展的に解消し、新たに心理学部の開設を構想するに至りました」

まず龍谷大学心理学部の独自性として挙げられるのが、社会の様々な領域と人々に役立つ実用性の高い心理学の専門性を修得でき、卒業後のキャリアに直結していること。求人採用においても、新学部とはいえ、これまでの実績と社会からの信頼というアドバンテージがあることも大きい。

「学生のロールモデルとして、臨床心理学科の卒業生をはじめ、官民学で活躍する心理学の専門家から直接アドバイスいただく機会も設け、確実にリアルなキャリアビジョンを構築していく予定です」

続いての独自性は、今や社会、学問のあらゆる領域に不可欠な「データサイエンス」の必修化である。世間では心理学というと文学や哲学領域の学問とのイメージもあるようだが、人の心の動きや行動、社会的影響などを客観的、統計的に分析する自然科学領域の学問であり、社会での活用においては、科学的エビデンスが一段と重視されている。そのため、データ分析に用いるパソコンを学部生全員が必携。BYOD(Bring Your Own Device)を活用しての講義を実施していく。もちろん、文系の学生については、統計学をはじめ数理科目のフォローを万全におこなう「大学教育で求められている文理融合も実現していきます」と安藤委員長はいう。

※心理学部(仮称)については、2023年4月開設予定(設置構想中)。設置計画は予定であり、内容に変更が生じる場合があります。



キャリア直結の実践的でユニークな科目

カリキュラムについても独自性と実用性を追求。「生涯発達カウンセリングプログラム」と「関係支援とコミュニケーションプログラム」の2つの柱にそれぞれ4分野と、プログラム横断科目として「データ心理学」を配置。計9分野の科目群を学生が自由に選択して学修していく仕組みだ。これにより幅広いキャリアを開発でき、もちろん実績のある龍谷大学大学院に進学し、臨床心理士や国家資格の公認心理師といった高度な専門職をめざすこともできる。

「まず『生涯発達カウンセリングプログラ

ム』では、乳幼児から高齢者まで、発達段階に応じて個々の心にアプローチするための知識、スキルを学修します。臨床や学校現場でのカウンセラーなどはもちろんですが、例えば高齢者のターミナルケアの学びを福祉現場で活かすといった様々なキャリアビジョンを想定できます」

もう一つの「関係支援とコミュニケーションプログラム」は、多様なコミュニケーションを焦点に、人と人との繋がり、自分と他者の心の在り方などにアプローチするための専門性を修得する。

「心理学において人と向き合うことは絶対不可欠であり、多様化、多職種連携が進む現

※心理学部(仮称)については、2023年4月開設予定(設置構想中)。設置計画は予定であり、内容に変更が生じる場合があります。



「心理学部」開設に向け、尽力する安藤徹委員長(副学長)

場では協働も必須です。さらに心理的困窮の支援だけでなく、心身ともに良好な人の健康や幸福、組織の生産性や創造性の向上、円満な人間関係の構築などにも心理学の専門性の活用が拡大し、SDGs(持続可能な開発目標)にも「ウェルビーイング(すべての人に健康と福祉を)」が掲げられています。こういった社会と時代のニーズに応えることがコミュニケーションに力点を置いた理由であり、龍谷大学心理学部の独自性を色濃く表していると思います」

科目もスポーツ選手のコーチング、組織のチームングやポジティブ・アプローチ、心身を整えるマインドフルネスやヨガ、健康促進のダ

ンスなど実に多彩。「心理学を志す人はもちろん、それ以外の人の関心にも繋がり、キャリアに役立つはずです」と安藤委員長。浄土真宗の精神を建学の精神とする龍谷大学ゆえの心理学部の意義も大きいと語る。

「心理学の学びは、龍谷大学がもっとも重視する人と人の心の繋がり、自らを省みながら他者の幸せに貢献する行動哲学「自省利他」、さらに「龍谷大学基本構想400」で掲げる『まごころ～Magokoro～』ある市民を育てることに通じます。まさに龍谷大学の理念、ビジョンを具現化した心理学部で多くの学生が学び、社会で活躍してくれることが今から待ち遠しくて仕方ありません」



café ritalにて。左から前田滉太さん、高岸武美レスターさん、石澤優紀さん

03 People, Unlimited

国際学部グローバルスタディーズ学科2年生
兵庫県立加古川西高等学校 出身
前田 混太 さん



誰もが集えてホッとできる居場所 利他の心で繋ぐ「café rita (カフェリタ)」

「“リタ”って言葉、響きがかわいいね。何かを始めるなら利他(リタ)の心は大事にしたよね。“自らの在り方を省みて、他者に思いやりを持って接する” 仏教用語の「自省利他」の利他(リタ)である。「世代を超えて安らげる憩いの場所を作りたい」という思いを込め、2021年9月、龍谷ミュージアムに「café rita (カフェリタ)」はオープンした。コロナ禍に入学し、オンライン授業が続き、人と接する時間も限られ寂しさを感じていた3人が集まったとき、すぐに名前はrita(リタ)と決まった。

立ち上げたのは、得意なイラストでお店のロゴをデザインした前田混太さん(国際学部2年)、SNS掲載写真はおまかせの高岸武美レスターさん(国際学部2年)、いつかは実家の山形でカフェをやりたいというアクセサリー作りが趣味の石澤優紀さん(文学部3年)の3人だ。それぞれの得意分野を活かしながら学業と両立させ週3日営業している。

構想から開店までは動き始めたらずとこの間。龍谷大学の2021年度『仏教活動奨

励金[※]』公募に採択され、大学からの奨励金で現実化が加速。失敗から学べることもあるからと場所を提供してくれたミュージアムの応援も心強かった。

SDGsを意識したメニューには、卒業生が起業した「アカイノロシ」のフェアトレードコーヒーや、経営学部が「ムレスナティーハウス」と共同開発したブレンド紅茶などが揃う。持続可能な社会への関心を持つきっかけになればと、商品の開発ストーリーや想いなどをお客様に伝えるよう心がけている。

今後は、農学部が作るお米や野菜など龍谷大学が携わる商品の販売や、学生や地域住民の方たちがやりたい事を一緒に作っていきける場にもしたいと考えている。

「行動する最初の一步を迷っている方は、まずcafé ritaに来て相談してほしい。社会を変えるような大きなことはできませんが、利他の精神のもとに、まわりの身近な人たちが幸せになり、その幸せが少しずつでも世界に広がっていけばいいな」と話す前田さん。café ritaの一期一会、是非一度ご賞味あれ。

※仏教(宗教)を基盤とした活動を奨励する自己応募型の助成金

■「café rita(カフェリタ)」

営業日 水・金・日曜日の12時~17時

※都合により、営業日時は変更となる場合があります。

<https://rita-kyoto.studio.site/>



「café rita」Webサイト

03 People, Unlimited

文学部日本語日本文学科 2年生
京都市立堀川高等学校 出身
大木 優芽 さん



大木さんたちの提言がきっかけで個室トイレに設置された「OiTr」



みんなで考える生理 学生の提言がムーブメントに

龍谷大学は関西の大学で初めてオイテル株式会社(東京都港区)の生理用ナプキンの自動提供装置「OiTr(オイテル)」を導入。学内700カ所の個室トイレに順次設置を進める。OiTrはトイレの個室に入室し着座するとセンサーが感知して広告動画が放映される。OiTrに専用アプリをかざすと生理用ナプキンを1枚受け取れる仕組み。生理用ナプキンは動画の広告収入によって無料提供を実現している(2時間ごとに1枚、25日間7枚まで提供)。

OiTr導入には、教職員を動かすきっかけがあった。それが文学部2年生の大木優芽さんたちのチームが2020年11月「龍谷大学 社会起業家育成プログラム2020」において発表したビジネスモデルだ。

「このプログラムでは、学生が社会課題・起業について講義を受けて、起業ビジネスモデルを構築して発表します。私は婦人科でピルを処方され生理の症状が改善されました。もっと早く知りたかったという自分の体験と、受験と生理が重なって実力を発揮できなかった友人の話から、社会的にできることがあるのではと思い、生理を課題に取り上げました」

発表に向けて生理の実態を調査すると、生理に苦しむ女性の多さ、日本での理解度の低さ、ネットにあふれる情報の疑わしさに直面。そこで「生理に関する正しい情報発信サイトの運営事業」を立案し、発表した。

「医師の監修によって情報の信頼性を担保し、スポンサーからの広告収入で運営する仕組みも盛り込みました」

立案したビジネスモデルはプログラムの最高評価・学長賞を受賞。追従するようにコロナ禍で『生理の貧困』という言葉が取り上げられるようになり、龍谷大学は教職員による「生理の貧困を解消するためのワーキンググループ」を2021年6月に開設。大木さんは学生ヒアリングなどに参画している。

「OiTrの反応は上々ですが、女子学生だけの恩恵なのでとの意見もあり、正しい認識や経済的・精神的支援には多角的な視点と思考が必要だと実感しました」

生理は、他者の理解がなかなか難しい。ただ、ちょっとした気遣いが当事者の救いとなることも事実。それが「誰一人取り残さない」キャンパスにも繋がっていく。

WEBマガジン「ReTACTION」掲載記事
<https://retaction-ryukoku.com/837>



水田転換畑で作るラッカセイ「おおまさり」に 新たな可能性を込めて

ラッカセイ「おおまさり」ならではの香ばしい風味とザクザクとした食感が楽しめる龍谷大学オリジナルチョコレート『BONBONS de CHOCOLAT』が誕生した。

「おおまさり」は一般的なラッカセイの2倍ほどの大粒品種。この「おおまさり」をブラリネ^{※1}にしてミルクチョコレートでコーティング。自社で開発製造をおこなう日仏商事株式会社のチョコレートブランド「CACHALOT(カシャロ)」(神戸市中央区)と共同開発した。

これは「持続的な食循環プロジェクト」の一環で、農学部牧農場(滋賀県大津市牧地区)で栽培・収穫した作物を付加価値のある商品にして販売する一連の流れを学び、地域資源の創出と6次産業化へ繋げ、地域活性化をめざすものだ。コメの消費量減少や後継者不足など滋賀県が抱える課題解決に向けて、水田転換畑^{※2}で「おおまさり」を栽培し、農学部の学生有志19名が商品化に臨んだ。

本プロジェクトのチームリーダーの一人、食品栄養学科の塔原さんに話を聞いた。

「食品栄養学科では、管理栄養士に向けた座学や屋内実習が中心だったのですが、この活動に参加して初めて農場で種まきから収穫までの全工程を体験することができました。

チョコレートの企画から作物の播種、収穫、商品の試作や打ち合わせを重ね、販売ルートの交渉や広報までを実践的に学べたことは貴重な経験になりました。農学部のWebサイトに掲載する動画の制作などもおこない、他学科の学生とともに専門分野の知識を活かして、助け合いながら取り組めるプロジェクトは農学部ならではの

「おおまさり」は5月の播種から半年後の11月に収穫。チョコレート約10,000粒分にあたる約25kgのラッカセイの外殻剥き作業をおこない「CACHALOT」で製品化。出来上がったハート型のチョコレートは、学生たちの手で、一粒一粒丁寧にパッケージに詰められた。

商品に同封するリーフレットも学生自ら制作。商品の説明だけでなく今回のプロジェクトの活動や想いも伝えられるように全員で意見を出し合い、何度も作り直して仕上げた。

チョコレートは2022年1月から学内や商業施設で販売。大好評を得て完売した。

「おそらく滋賀県の水田転換畑でラッカセイを育てているのは龍谷大学農学部だけです。このチョコレートがきっかけとなり、水田転換畑の新たな活用方法として農業の課題解決に繋がっていくとうれしいです」と塔原さん。

※1 ローस्टした木の実をシロップと絡めペースト状にしたもの

※2 水田だった耕地を畑として使用する、水田の新たな活用方法



出来上がったチョコレートをパッケージに丁寧に詰める塔原さん

04

Education, Unlimited

グローバル教育推進センター長
国際学部
久松 英二 教授

キャリアセンター長
経営学部
松永 敬子 教授



グローバルの本質をリアルに学ぶ グローバル・キャリア・チャレンジプログラム(GCCP)

企業も支持
語学だけでも就活のためだけでもない

大学教育の重要課題であるキャリア形成において、龍谷大学には先駆的かつ独創的なオリジナルのプログラムがある。2017年度からグローバル教育推進センターとキャリアセンターが協働で展開する「グローバル・キャリア・チャレンジプログラム(通称GCCP)」だ。「グローバルキャリア」という名称からは語学学習や就職対策を連想するが、それとは一線を画し、優秀なグローバル人材を求める企業からも注目・評価されている。そこでグローバル教育推進センター長・久松英二教授(国際学部)とキャリアセンター長・松永敬子教授(経営学部)にGCCPの魅力聞いた。

「GCCPの目的は、グローバルに展開する企業や国際機関で活躍するために求められる知識や能力とは何か、そのために必要な経験や学びをいち早く知り、学生が主体的に取り組んでいくことです。受講対象は全学部の1・2年生に限定。本学の豊富な留学プログラムや、龍大生限定の協定型インターンシップ(グローバル)に繋がることも魅力です」という久松教授。

GCCPは、課題に対して自ら考え、チームで協力し、解決方法を構築する実践的なPBL^{※1}形式で展開されるのだが、ここにGCCP最大の魅力がある。日本屈指のグローバル企業がアドバイザーボード^{※2}として密に関わり、講義を担当しているのだ。

「低年次からPBLに取り組み、しかも実際にグローバル領域で活躍する現場の方々から直接ご指導いただけるという大変貴重で贅沢な機会です。モチベーションが上がらないはずがありません」と松永教授は力説する。

講義の中では「企業理解セミナー」という会社訪問もおこなわれる。「ここ2年はコロナ禍の影響でオンライン訪問を実施していますが、例えば、首都圏の本社の内側を映像とともにご紹介いただいたり、海外勤務の方と繋いでくださるなど、直接訪問ではかなわなかった方々との出会いは、オンライン訪問ならではのメリットとなりました」と松永教授。

グローバルキャリアに必須で、企業も求めるチャレンジ精神の醸成も掲げるGCCP。入学直後から、学びに対して意欲的で将来への意識が高い学生には格好の場であり、「毎年、定員オーバーです」と両教授はうれしい悲鳴をあげる。

※1 PBL(Project Based Learning) : 問題発見・解決型学習



※2 2021年度の学外アドバイザーボード
株式会社インダ、株式会社JTB、小林製薬株式会社、
日本航空株式会社、富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社

成果発表会でのプレゼンの様子



厳しさこそが学び、将来の糧になる

GCCPのハイライトである成果発表会でのプレゼンテーション。『龍大生がグローバル領域で活躍する人材になるための具体的な方法を提案してください』というミッションにチームで取り組むが「そう簡単にはいかない。それもGCCPの狙いです」という久松教授の言葉通り、チームは学部・学年が偏らないよう編成され、様々な経験値の人たちと協力しながら取り組むため困難は必至。

ようやく完成した提案も内容の実現性や独創性、プレゼンに臨む姿勢などを事細かに評価され、時には辛辣な指摘も受けるという。

「実社会はもっと厳しく、いかなる状況でも自分の力を発揮しなければならない。それゆえに百戦錬磨の企業の役職者からの手厳しい評価は自分の課題への気づき、学びへの喚起に効果てきめんです。アドバイザーボードの企業の皆さまには本当に感謝しています」と松永教授。

成果発表会で最優秀賞、優秀賞に選ばれた2チーム全員が海外インターンシップ参加費用の一部補助など特典も受けられるGCCP。受講後、主体性や柔軟性、課題解決力、そして自信が備わったとの声が聞かれ、修了生は日々の学修や学内外での活動にも積極的に挑戦している。



受賞が決定して喜ぶ学生たち

2020年6月には、修了生が発起人となり、留学・国際交流を志す人を応援する学生団体「グローバルサポーター（通称グロサポ）」を設立。この動きを受けて、グロサポとキャリアセンターに所属する学生キャリアサポーター（通称キャリサポ）との連携を推進し、GCCPを学生主体のプログラムへと昇華させたいとビジョンを語る久松教授と松永教授。GCCPは学生に大変人気のため、受講がかなわなかった学生へのフォロー体制の整備も検討している。

学生の誰もが早い段階からグローバルの本質への理解を深め、チャレンジ精神をもってこれからの社会に羽ばたいてほしい。GCCPは今後もその役割を果たしていく。



久松英二
2021年グローバル教育推進センター長就任。
南山大学文学部神学科卒業。1985年南山大学大学院文学研究科神学専攻博士前期課程修了（神学修士）。1993年ウーイン大学大学院神学専攻博士課程修了（神学博士）。専門分野は東方教会神秘主義思想。2010年龍谷大学国際文化学部着任。2014年国際文化学部長、2015年国際学部長、2018年世界仏教文化研究センター長を歴任。



松永敬子
2019年キャリアセンター長、インターシップ支援オフィス長就任。
大阪体育大学大学院体育学研究科修了。専門分野はスポーツマネジメント。日本スポーツマネジメント学会理事、日本体育・スポーツ経営学会理事、日本スポーツ協会マネジメント部会員、大学スポーツ協会デュアルキャリア部会員。2008年龍谷大学経営学部着任。2016年ボランティア・NPO活動センター長、2017年学生部長等を歴任。

04 Education, Unlimited

法学部 法律学科
牛尾 洋也 教授



『もったいない』食品ロス問題を考え 自ら動き解決を探るアクティブ・ラーニング

法的視野で身近な社会問題を見つめる

「法律は社会のあらゆる場面に深く関わっています。そのため、社会と接点を持ち、学ぶことが非常に重要です」と話す牛尾教授。

龍谷大学法学部では、全国でも珍しい法学部でのアクティブ・ラーニング科目を2017年度から実施。学生は訴訟の現場に足を運ぶだけでなく、事前学習やテーマ設定、ヒアリング先の選定から日程調整、報告書作成までおこなう。

牛尾ゼミにおいてもアクティブ・ラーニングを用いており、2021年度は「コロナ禍での大学生の学び、アクティブ・ラーニングはどうあるべきか」という牛尾教授からのお題のもと、牛尾ゼミの学生(2年生)は、身近な社会課題として「食品ロス(フードロス)」を選び、2021年11月にイベントを開催した。

『もったいない』は仏教思想由来の言葉で日本から世界へ広まっているが、日本の食品ロスは1年間に約643万トンと世界第3位。国民1人あたりに換算すると、全国民が毎日おにぎり1個を捨てていることになる。

ゼミ生はまず食品ロスの問題と国内外の

政策や法整備などを調査。期限切れや余った季節商品などを提供する社会貢献型ショッピングサイト「KURADASHI」を運営する株式会社クラダシ(東京都品川区)と食品ロス削減の連携を結ぶ大垣市商工会議所(岐阜県)の担当者にオンラインでインタビューをおこなった。

さらに研究を深めるなかで、ドキュメンタリー映画『もったいないキッチン』(配給:ユナイテッドピープル)という存在をキャッチ。「食品ロスを楽しく解決!」を実践するオーストリア人フードアクティビスト(食材救出人)で映画監督のダーヴィド・グロス氏がキッチンカーで日本を巡り、廃棄予定の食材を生産者やシェフとともに美味しい料理に生まれ変わらせるという目にも美味しい内容。

ゼミ生たちは学内上映を企画。牛尾教授の「単なる上映会では研究として成立しない。専門家を招いてのトークセッションに」という助言を受け、人選と交渉にも挑戦し、この映画のプロデューサー関根健司氏、食品ロス問題ジャーナリスト井出留美氏、農林水産省食品ロス・リサイクル対策室担当官の岸田学氏の出演をかなえた。



トークセッションの様子



日々の意識と行動が課題解決に繋がる

イベントは深草キャンパス・成就館とオンライン配信にて約100名が参加。映画上映後には食品ロスについてまとめたゼミ生のプレゼンテーションとゲストによるトークショーをおこなった。

プレゼンテーションではまず「食品ロスの認知度は高いが、意識した行動はしていない。しかし多くの学生は食料を買い過ぎない、料理を作り過ぎたら冷凍保存をする、賞味期限にとらわれないといった食品ロスに必須の行動を無意識におこなっている」と龍谷大学生を対象にした調査結果を報告。学生に

向けてのアピール次第で食品ロスの意識や行動を促進できることや、食品ロス政策への学生視点からの率直な意見を発表。専門家たちは大きな関心を示した。

牛尾教授は「食品ロス問題は、ゴミ、エネルギー、環境といった事柄と密接に繋がり、あらゆることに税制や法律が絡んでいます。解決には多領域の連携が不可欠であるとともに、私たち一人ひとりの生活での変化、意識も重要です。そのため、学生のライフスタイルを起点に広い視野で問題を捉えていき、これからどのように行動していくべきかを学生目線で考えて提言をおこないました」と説明。

当日はゲストにペットボトルの飲み物を用



ゼミ生を指導している牛尾教授



牛尾洋也

大阪市立大学大学院法学研究科後期博士課程単位取得退学。2003年より龍谷大学法学部教授。専門は市民法、土地法制、質貸借法制。まちづくりや景観に関する調査もおこない、東京都国立市、広島県鞆の浦の景観訴訟問題等では訴訟の現場に学生とともに訪れ、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた社会実践教育を展開。2017年、自身を中心となり、法学部科目「法政アクティブ・リサーチ」を設立。自然共生・循環型の持続可能な社会の在り方を法律家の立場から研究・発信。2012〜2019年度龍谷大学里山学研究センター長。近著に『森里川湖のくらしと環境―琵琶湖水域圏から観る里山学の展望―』（2020年／晃洋書房）。

意していたが、全員が水筒を持参していたことに学生はこういった積み重ねの大切さを再認識。研究意欲も向上し、大学生協や京都市の環境施設などの調査をおこない、農林水産省での提言を予定。龍谷大学での食品ロスの訴求や削減も進めていく。

「アクティブ・ラーニングを経験すると、課題に対して頭も体も自由に動かせるようになります。実社会との出会いは学生に刺激と自信を与え、学びの吸収力も上昇します。これらの効果は学生一人ひとりの生き方に活かされていくでしょう」と牛尾教授。学生が持続可能な社会と未来を築くパワーになることに期待していた。



文化遺産の医者として 次の100年に繋ぐ修復を

文化財の法医学教室ここにあり

日本で鑑賞できる美しい文化遺産。それらは作り出された当時からタイムスリップしてきたわけではなく、当然、何百年にわたって何度も修復されながら今に存在する。江戸の修復作業もあれば、明治、令和の修復があり、また100年後の修復もあるだろう。その時、現代の取り組みの結果が出る。

比叡山延暦寺の根本中堂、平等院鳳凰堂、厳島神社、日光東照宮、奈良吉野の金峯山寺、西本願寺唐門など、名だたる国宝・重要文化財等がそのメンテナンス時の「お医者さん」として列をなして頼るのが、文学部歴史学科文化遺産学専攻の北野教授。文化財修復について日本トップレベルの東京文化財研究所にいた頃からの縁で、連日様々な案件が飛び込む。

北野教授は傷みややすい木製遺物や建造物の塗装彩色、動かしにくい石造物が専門。呼ばれると日本各地の患者(文化財)のもとへ駆けつけ、体を張って診察。真夏の焼けるように熱い平等院の瓦の上を、裸足で歩いて登ったり、雪降り積もる真冬の夜に日光東照宮陽明門でX線写真を撮り続けたことも。東日本大震災被災地の文化財等レスキュー

活動に従事した際には、地域に密着した文化財の大切さも実感した。また、急ぎ案件の遺物が持ち込まれ、その分析・調査に学生が参加することもあるとか。

「私の仕事は例えるなら文化財の『法医学教室』。お医者さんですから、まずはX線分析などをして健康診断。それから治療方法や環境の提案をしたり、手術やお薬の処方のように部材や塗料のレシピを作成したりします」

時には新発見も。日光東照宮陽明門を担当した折、表面の壁画を分析すると、表層の絵は油絵であり、その下に218年前の狩野派の絵が隠れていることもわかった。

「昭和の修復時にはわからなくても、今後の新技術で解明されることもあるでしょう。一方で江戸の修復跡に目を見張る丁寧な仕事を見つけ『流石だな』と感嘆するときも。平成・令和の修復方針を間違えれば100年先には絶対にわかってしまいます」

文化財を所有する寺社仏閣や国の意向や予算があり、現場で作業する職人さんたちの経験則もある。様々なバランスをとりながら、この文化財がオリジナルの状態で100年200年先も継続する修復方針とは何かを日々模索しています、と北野教授。



Feature Article

People, Unlimited

Education, Unlimited

Research, Unlimited

Connect, Unlimited

News & Topics

西本願寺唐門の調査をする北野教授



データ化による価値発信が文化財を救う

国宝である西本願寺唐門は2021年9月、3年程かけて約40年ぶりの修復(屋根の葺き替え、全体の黒漆の塗り直し、彫刻の彩色)を終え、極彩色の麒麟や唐獅子など107点の彫刻が蘇ったが、顔料の特定にはX線分析を活用した。また、修復段階に彫刻物など部材を外したタイミングで3次元計測して微細な表情をデータ化し、国際シンポジウムでの報告資料を作成した。ふだん至近距離で鑑賞しづらい高さにあるものの様子が詳しく再現できる。「世界を見ると、中国やフランスなど文化こそアイデンティティだと大切にしている国は、

文化財へのお金のかけ方が違います。残念ながら今の日本では文化財修復にかかる予算に限界があるので、それぞれの文化財の価値を一般の方に知っていただき、サポーターを増やし、修復資金を募るといった動きが必要になってくる。そんなとき3次元映像にその背景のストーリーなどを添えて魅力を発信していくことは、インバウンドなど観光資源としての活用にも繋がります」

そんな取り組みの一例が、金峯山寺の重要文化財・大型絵馬「板絵着色廻船入港図額」。全体が黒ずみ、今後修復の必要性がある。それに向けて絵の価値を高めるため、凸版印刷株式会社(東京都文京区)文化事業推進本



金峯山寺の重要文化財・大型絵馬「板絵著色廻船入港図顔」の分析作業

部と連携して分析作業が進行中。可搬型の機器で赤外線調査をすると、華麗で豪華な当時の風俗の様子が徐々に浮かび上がってきた。

学生たちには修復現場を体験できるアルバイトやインターン等のチャンスも。「全てチームでの作業なので、どこに行っても結局、しっかりと挨拶ができる、メモをとる、遅刻をしないなど、信頼関係構築のための社会人マナーが大切になってきます」と北野教授。

今後、3次元計測などのデータを使った修復方針の策定力を、海外の案件に活かす構想も生まれているという。次なる文化財のお医者さんは、世界中に患者さんを抱え100年後を作っていくのかもしれない。



北野 信彦

愛知大学文学部史学科卒。博士(学術:京都工芸繊維大学)、博士(史学:東京立大学)。(財)元興寺文化財研究所研究員、(独)国立文化財機構東京文化財研究所保存修復科学センター室長などを経て、2016年龍谷大学文化遺産学専攻開設と同時に現職。著書に『ベンガラ塗装史の研究』(雄山閣、2013年)など。

琵琶湖の未来に向けた水質改善を 数理モデルで提示

琵琶湖固有の二枚貝セタジミを 評価指標にした環境調査

琵琶湖は日本最大の湖であり、多くの生き物が生息し、私たちもその恩恵を受けて生活している。水質システム工学（水質形成に関連するシステムを工学的な視点で捉え、理解し、制御するための学問）を専門とする先端理工学部の岸本直之教授は、琵琶湖保全再生法に基づく沿岸環境の保全再生の研究をする滋賀県を中心とした産官学一体のプロジェクトに参画。

このプロジェクトは2018年から2021年度の計画で、東レテクノ、滋賀県、関西医科大、岡山大、九州大などが関わり、セタジミを指標生物に、琵琶湖沿岸域の環境再生を試みている。岸本教授は現地では集められた情報や関係方面からのデータを基に、コンピュータを用いた数理モデルを構築し、解析結果を提示している。

昔は庶民の味だったが漁獲量は年々減少し今では高級食材になっているセタジミは、琵琶湖固有種の二枚貝で、湖底に生息する食物連鎖の上位に位置するキーストーン種^{*}。セタジミの生存は下位に位置する他の生物の生存が可能となる裏付けになる。

^{*}キーストーン種：生息数は多くないにもかかわらず、生態系に大きな影響を与える要となる生物種

またセタジミが生息する湖底は汚泥の堆積による砂地減少など環境変化の影響を最も受けやすい場所。砂の中から入水管を伸ばして体内に水を取り込み濾過しながら水中の浮遊有機物や植物プランクトンを食べるセタジミは、水中の過度に増えた栄養素を渡し取り、水を浄化する働きがある。これらのことからセタジミの存在は環境保全の目安となる研究の指標となった。

プロジェクトの終盤に入り、岸本教授の解析によりセタジミの生存を左右するのは、溶存酸素（水中に含まれる酸素量）の低下と高い水温ということが明らかになる。

溶存酸素は湖底の水が流動しなくなることで低下する。水中生物にも酸素は必要であり、また30度を超える高水温ではセタジミは呼吸が活発になりエネルギーを消費して死んでしまうことがわかった。

地球温暖化や、ダムで河川から砂が運ばれなくなったことが要因とされるが、人間生活と自然環境の両方を守るのは難しい課題だ。「人工的に水流を作り出すのではなく、あくまで自然の営みの中で適切に水が循環するようにしなければいけない」と岸本教授。今後セタジミを繁殖させていくのは水温の低い琵琶湖北部でないと厳しいようだ。


```

1 To day
Worksheets(5).Cells(i + 3, 1).Value = i
Worksheets("Condition").Cells(i + 1, 1).Value = 1 Then
For j = 4 To 1 Step -1
  ' 貝齡のシフト
  w(j) = w(j - 1)
  wmax(j) = wmax(j - 1)
  p(j) = p(j - 1)
  ' 産卵に伴う平均軟体部重量 変化・産卵数計算
  If p(j) > 0 Then
    L(j) = (w(j) / 0.0235) ^ (1 / 2.244)
    nsigma = (1.42 - L(j)) / (0.22 * L(j)) '1.42: 産卵可能殻長cm, 0.22 巻
    vv = 0
    ss = nsigma
    Do While ss < 3
      vv = vv + ss * 0.1 * Application.WorksheetFunction.Norm_S_Dist(
    Loop
    If nsigma < 3 Then
      LL(j) = vv / (1 - Application.WorksheetFunction.Norm_S_Dist(nsign
      ww(j) = 0.0235 * LL(j) ^ 2.244 '産卵個体平均軟体部乾燥重量
      w(j) = w(j) - ww(j) * (1 - Application.WorksheetFunction.Norm_S_Di
      egg(j) = 55000 * 0.5 * p(j) * (1 - Application.WorksheetFunction.N
    Else
      egg(j) = 0
    End If
  Else
    egg(j) = 0
  End If
Next j
egg() = 0.0005 * (egg(3) + egg(2) + egg(3) + egg(4)) '0.0005: 稚貝の1年後の
Worksheets("Condition").Cells(i + 1, 5).Value = Exp(Worksheets("C
Worksheets("Condition").Cells(i + 1, 5).Value / (Worksheets("Condi
2.4 * Worksheets("
Worksheets("Condition").Cells(i + 1, 5).Value /

```

岸本教授のパソコンの画面に映し出された数値計算プログラムコード



生態系も地球温暖化も水処理も同じ

岸本教授は、以前から滋賀県と琵琶湖の水質汚濁メカニズムを調査してきた関係もあり今回のプロジェクトに繋がった。

近年の水質調査によると、琵琶湖の水質は良くなっている。その証として水草が増え、透明度が増して光が湖底まで届いていると考えられる。しかしセタシジミの繁殖は戻ってこない。餌となるプランクトンが、珪藻類から、アオコなどの藍藻類に変わってきているからだ。藍藻類は餌にはならない。やせ細ってきたセタシジミの胃の内容物を調べれば藍藻類を食べている。

琵琶湖は1990年代から2000年はじめまでアオコが多く発生したため生態系が変化してしまった。生態系は環境変化に徐々に適応する。水質が戻っても、生態系はすぐには元に戻らない。現在の琵琶湖がその状態だ。

岸本教授の研究テーマは水質汚濁メカニズム解析と水処理テクノロジー。水処理施設は単機能の装置を組み合わせシステムとして役割を発揮する。生態系も同じだ。多種多様な生物が集まり生息することで生態系が出来上がっている。地球温暖化も同じ。一つひとつの原因が積み重なって今の状況になっている。

「どこを動かすと何が起こるのか。これは



調査で採取された琵琶湖底質のコアサンプル

人間の頭では完全には理解できないし、全てを試すこともできない。そこで物理的要素や化学反応も含め統合的に取り込み、それを数理モデルによって解析すると、見えていなかったものが見えてくる。予測がたてられる。問題点がわかれば、そこを重点的に対策する。応用範囲も広い。物質収支という考え方です。数式に当てはめていくのはとても難しいように思いますが理解すれば面白いものです」

この琵琶湖でのプロジェクトがモデルケースとなり、今後、同じような環境問題に直面している日本国内の湖沼での調査研究へと広がっていく。



岸本 直之

京都大学大学院工学研究科衛生工学専攻修士課程修了、関西電力株式会社総合技術研究所研究員、京都大学大学院工学研究科環境工学専攻助手・講師、2003年龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科助教授を経て、2008年より現職。

仏弟子たちが勢ぞろい 幻の展覧会、2年越しの開幕

春季特別展『ブッダのお弟子さん
— 教えをつなぐ物語 —』

2022年4月23日(土)～6月19日(日)

主催：龍谷大学 龍谷ミュージアム、朝日新聞社、京都新聞

新たに約3割の作品を入れ替え、図録も増補。2020年にコロナ禍で中止となった幻の展覧会が、2年越しの開幕を果たす。

10人の直弟子(十大弟子)、16人の高弟(十六羅漢)をはじめとする出家者から、維摩居士(ゆいまこじ)に代表される在家信者まで。ブッダの活動を支え、教えをつないだ弟子たちの物語に、絵画や彫刻、仏教經典を通して触れることができる。

「仏画でも仏像でも多くの場合はお釈迦さまが主演。お弟子さんたちは脇役です。ですが、ブッダ亡き後、仏教が発展し、定着したのは、彼らの活躍あってこそ。現代に伝わる仏典には、仏教教団の伝統とともに、仏弟子たちのすがたが受け継がれています」と本展覧会を企画した岩田朋子学芸員。

「魅力はやはり十人十色の人間味あふれるキャラクター。境遇や出自も様々で、貴族もいれば資産家もあり、なかには使用人や、異教徒からの改宗者もいます」

仏教美術作品とそれらの物語を伝える仏教經典をあわせて紹介し、仏教に詳しくない人にも親しみやすい内容となっている。

「仏教総合博物館ならではの総合的な展示を通して、知ってこそ楽しめる仏教美術の世界、美術から親しむ仏教經典の世界に触れていただければ。豊富に所蔵する經典をはじめ古典籍も活かし、キャラクターにまつわる物語を軸とした展示を試みました」

今回の復活開催にあたり、地域に伝わる文化財にも着目した。大学周辺など地縁を活かした調査をおこない、深草キャンパスに近い宝塔寺と伏見の月橋院から十六羅漢図が出展される。これまで紹介される機会がなかった文化財に、光が当たることとなる。

ガンダーラ仏から葛飾北斎の作品まで。インド・東南アジア・チベット・中国・朝鮮半島・日本と、古今東西の多様な作品で構成される本展覧会。国宝十六羅漢像のうち、中国北宋時代の貴重な羅漢図(清凉寺蔵)と、日本最古の羅漢図(東京国立博物館蔵)が揃うのも見どころだ。



岩田朋子 龍谷ミュージアム学芸員



龍谷ミュージアム
Webサイト



かなかぼっさそんじゃ

重要文化財「十六羅漢像のうち第二迦諾迦伐蹉尊者」(部分) 中国 元時代 愛知・妙興寺蔵 ※画像提供：一宮市博物館



心に寄り添う臨床現場での橋渡し

田中 至道

岐阜県出身。2011年龍谷大学文学部仏教学科卒業後、同大学大学院実践真宗学研究科に進学し2014年に修了。同年、岐阜県大垣市にある沼口医院に臨床宗教師として就業。午前は僧侶、午後からは臨床宗教師として活動し、医療従事者と連携しながら医療チームの一員として日々患者様やご家族の心のケアをおこなっている。

※2019年8月撮影

07 Connect, Unlimited 龍谷大学をつなぐ対談

臨床宗教師

田中 至道さん ×

文学部 真宗学科

森田 敬史 教授

「臨床宗教師」という存在をご存じだろうか。被災地や医療機関、福祉施設などの公共空間で心のケアを提供する宗教者のことだ。布教を目的とせず、相手の価値観を尊重しながら宗教者としての経験を活かして苦悩や悲嘆を抱える人々に寄り添う。龍谷大学は大学院実践真宗学研究科において「臨床宗教師」を育成している。この度、在宅型ホスピス「メディカルシェアハウス・アマターバ」（岐阜県）で臨床宗教師として活動する実践真宗学研究科修了生の田中至道さんと、実践宗教学・臨床死生学を専門とする森田敬史教授のリモート対談をおこなった。

田中: 私はお寺の跡継ぎなのですが、進路で迷い様々な出来事で深く生死について苦悩していた頃、臨床の現場で活動する僧侶の存在を知ったのがきっかけとなり、大学院へ進学し、研修を経て臨床宗教師の資格認定を受けました。森田先生とは実習先の新潟で出会い「現場で活動する宗教者は空気のような存在になることが大事」という先生の教えを今でも活動の指針にしています。

森田: ありがとうございます。臨床宗教師になられたのは、自身の辛い経験を活かされたことだったのですね。私も田中さんと同じくお寺に生まれ、10年間ほど、病院に常駐する僧侶として患者様とご家族のスピリチュアルケアに携わってきました。混沌とした時代背景、社会や人の在り方の変化もあって、医療や介護、福祉の現場では、精神的・心理的支援が

欠かせないものとなり、臨床宗教師への要望、期待値も高まっていますが、現場におられる田中さんは臨床宗教師という存在、活動をどう捉えられているのか、お聞かせください。

田中: 臨床現場でケアをおこなうということで、臨床心理士をはじめ、カウンセラーとの違いについてよく質問を受けるのですが、まず臨床宗教師は宗教者であることが大前提です。提供するケアにおいても、臨床心理領域の国家資格を持つ専門職や教育を受けた方は、医療の知見からアプローチをおこない、ケアを提供されていきます。一方、臨床宗教師は、例えて言うなら「生と死の専門家」です。お相手の声を真摯に聴き、そのままに受け止める「傾聴」によって寄り添い、一緒にいのちや人生、さらに死生観に向き合っていくことが特徴で、これは臨床宗教師だからこそできる強みだと捉えています。

森田: その臨床宗教師に対して、ご利用者様の受け止め方はいかがでしょうか。

田中: 現場では「宗教者に話を聞いてもらってよかった」との声をたくさんいただきます。当然、宗教宗派が異なる方も接するのですが、宗教談義になることも多く、ご要望があれば浄土真宗の教えについてお話しすることもあります。どの宗教宗派が良いとかではなく、お互いが大事にしている宗教的な価値観を共有することが目的です。「私の信仰はやっぱりこれでよかった」と確認したり、信仰をさら

に深めたりすることは、その方の日々の心の落ち着きや残りの時間を含めた人生への幸せにも繋がります。そういった意味でも、老病死の苦しみに直面して、人生や自分の存在意義への疑問、死への恐怖といった悩みや苦しみを和らげるスピリチュアルケアに加え、場合によっては、お念珠を一緒に作ったり、患者様と一緒に読経をしたりと宗教的ケアを提供できる臨床宗教師の意義は大きいと思います。

森田: 経験がともなっているので、深く、重い言葉として伝わってきますね。2011年3月11日の東日本大震災をきっかけに臨床宗教師という概念と資格が確立され、田中さんのような方が活躍されることにより、その意義や要請はいつそう大きくなってきました。私も臨床宗教師の重要性は重々承知していますが、僧侶、宗教者としてはどうあるべきかという課題が自らに出てきました。

田中: 森田先生の課題について、私も悩むことがありましたが、患者様のお話から、僧侶がもつ地域との深い絆、ご縁を活かせば、救いや癒しをもたらす信仰を含め、より踏み込んだケアを提供することができると思いついたのです。それで、地域の寺と僧侶、檀家様などの関係を再構築する必要があると痛感。この再構築を可能とするのは、現在、臨床現場での軸となっている多職種連携やチーム医療ではないかと思いました。多職種連携やチーム医療とは、医師や訪問看護師・訪問介護士・ケアマネージャー・相談員などの医療従事者と連携を密にし、医療やケアを継続的に提供していくことで、私もこの一員です。具体的な連携活動としては、患者様からうかがった思いや悩んでいることを医師や看護師、介護スタッフに守秘義務に配慮しながらフィードバックし、治療方針やケア方法の再検討を進

めるなど、チームの橋渡しの役割も担っています。この多職種連携、チーム医療の輪の中に、必要なケースに応じて地域の宗教者の方にも加わっていただければ、より手厚いケアを提供できます。そういった意味での地域の宗教者と患者様を繋ぐ橋渡しの役割もあります。

森田: 確かにそうです。宗教者の中には、寺や教会など自らのホームグラウンドの外に出て、アウェイである公共空間で多様な活動、貢献されている先達が数多くいらっしゃいます。今、臨床宗教師という概念が構築されたことで、医療現場で専門的に活躍する道も確立されましたし、田中さんがおっしゃる通り、宗教者が協働できる、担うべき役割がありますね。もちろん、期待を持ってくださることはありがたいことですが、私が病院で勤務していたとき「臨床現場の宗教者は全体的に俯瞰して見渡すような立ち位置に居なければいけない」と言われたことがありました。宗教者は臨床現場で唯一、死と向き合い、寄り添う存在です。また、宗教は日常生活の中でいつも必要とされるのではなく、ある種、危機的な状況の中で発動するものでもあるので、先行きがなかなか見えないこれからの時代にさらに求められていくと思います。

田中: おっしゃる通りです。世の中には苦悩や絶望を抱え、救いや癒しを求める方がたくさんいらっしゃいます。その方々がおられる限り私は臨床宗教師として力を尽くし、今後は誰もが臨床宗教師や宗教者と出会える社会を願って活動を続けていきたいです。

森田: 素晴らしいですね。龍谷大学も臨床宗教師の育成において、田中さんの想いに続いていきます。

森田 敬史

大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学。2007年から新潟県にある長岡西病院ビハール病棟にて常勤ビハール僧として患者・家族・スタッフの心のケアに努める。2016年東北大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。大学院在籍時に被災地において宗教者としての活動に従事。2013年長岡西病院ビハール病棟の常勤ビハール僧に復職。2018年龍谷大学文学部真宗学科 教授着任。専門は実践宗教学、臨床死生学。臨床宗教師の養成・継続研修にも携わる。

最新情報

※マスクを外して写っている写真は
撮影時のみマスクを外しています



硬式野球部が関西地区大会を制し 念願の明治神宮大会へ11年ぶりに出場

龍谷大学硬式野球部は、関西六大学野球連盟の「秋季リーグ戦」を勝ち抜き優勝。その後、関西5連盟の優勝校5校で明治神宮大会(全国大会)への出場権2枠をかけて競う「関西地区大学野球選手権大会」にて準優勝を果たし、11年ぶりに「明治神宮外苑創建95年記念 第52回明治神宮野球大会」へ出場。当日は卒業生や保護者の方など約500名の関係者が応援に駆け付けた。



ブランディングを評価する 日本初のアワードで 最優秀賞“Best of the Best”を受賞

2021年12月、優れたブランディングを実行している組織を評価するアワード「Japan Branding Awards 2021」(インターブランドジャパン主催)において、龍谷大学ブランディングプロジェクトが最高位の“Best of the Best”を受賞。同賞を大学が受賞するのは初めて。「仏教SDGs」を掲げブランド力を高める活動や、ソーシャルビジネス起業支援など、実態を伴う活動にブランドの考え方が強く根差している点が高く評価された。



「第69回全日本吹奏楽コンクール」 吹奏楽部が12回目となる金賞を受賞

2021年10月、2年ぶりに開催された「第69回全日本吹奏楽コンクール」(香川県レクザムホール)の大学の部において、龍谷大学吹奏楽部は2年連続、通算12回目となる金賞に輝いた。コロナ禍で2020年度のコンクールが中止となり、悔しい思いをした先輩たちの想いを胸に最高位の金賞を受賞した。また、2021年12月には「第48回定期演奏会」を開催。大舞台上で演奏できる感謝の気持ちを胸に、多くの聴衆を包み込む素晴らしい演奏を披露した。



コロナ禍でがんばる学生を保護者会が応援 学生応援企画「百縁夕食」を実施

龍谷大学親和会(保護者会)はコロナ禍でがんばる学生を応援したいという保護者の想いから1食100円で栄養バランスの取れた夕食を提供する「百縁夕食」を全キャンパスで全ての学生を対象に実施(2021年12月~2022年1月)。「百縁夕食」実施時には各サークルによる演奏会や展示等、低迷していた学生の諸活動の発信、交流機会の創出に繋がった。また全キャンパスの食堂に高性能空気清浄機を寄贈。感染防止対策を整備した。



REC設立30周年記念シンポジウム 『持続可能な社会創造のために大学ができること~仏教SDGs~』をオンライン開催

2021年11月、龍谷エクステンションセンター(REC)は設立30周年記念シンポジウムをオンラインで開催。環境省の中井事務次官、入澤学長、木村RECセンター長による講演や、三日月滋賀県知事、佐藤大津市長を迎えたパネルディスカッション、本学発の社会課題解決型ベンチャー企業の事例報告など、約230名が参加し、大学と社会の在り方を考える機会となった。

<https://www.ryukoku.ac.jp/rec30th/index.html>



ボクシング部元主将 谷口将隆選手が WBO世界ミニマム級で新世界王者に輝く

2021年12月開催の世界ボクシング機構(WBO)ミニマム級タイトルマッチ(東京・両国国技館)において、龍谷大学卒業生の谷口将隆選手(2016年文学部卒)が王者のウィルフレド・メンデス選手(プエルトリコ)を相手に2回ダウンを奪うなど粘り強く攻め11回TKO勝ち。見事新王者に輝いた。谷口選手は在学時、練習の傍ら授業にも真剣に取り組み文武両道を実践。後輩の面倒見もよく最終学年ではボクシング部主将を務めた。



龍谷ミュージアム開館10周年記念 トークセッションをオンライン開催

2021年に開館10周年を迎えた龍谷ミュージアムは、龍谷大学入澤学長と美術鑑賞に造詣が深く、アイドルとして活躍中の和田彩花さんとのトークセッションを開催(2021年9月)。新型コロナウイルス対策の緊急事態宣言によりオンラインとなったが、仏像の魅力や、特別展「アジアの女神たち(2021年9~11月)」の見どころなどについて語り合い、仏教総合博物館として取り組んできたこれまでの成果と魅力を広く発信した。



龍谷大学経営学部 × (株)マンドリル 「ぶどう山椒をかけて食べるカレー」 3種を発売

龍谷大学経営学部藤岡ゼミナールと株式会社Mandrillus(神戸市中央区)は共同開発したレトルトカレー「ぶどう山椒をかけて食べるカレー」3種を2021年12月に発売。ぶどう山椒の香りや美味しさを最大限に感じる「ぶどう山椒の粉末小袋」を付けた新しいカレーを共同開発。和歌山県有田川町の「ぶどう山椒の発祥地を未来へつなぐプロジェクト」の一環として、売上の一部をぶどう山椒の苗木購入資金にあて産地存続をめざす。



「政策学部・政策学研究科創設10周年 記念式典・シンポジウム」を オンライン開催

2020年に創設10周年を迎えた龍谷大学政策学部・政策学研究科は、コロナ禍により見送っていた記念式典・シンポジウムをオンラインにて2021年10月に開催。「2030年!君たちの生きる世界をどうつくるか〜地域・環境・君の未来〜」をテーマに社会で活躍する卒業生も交え、講演会、パネルディスカッションを実施。創設10周年記念ソング「ツナガル」を制作した「宇宙団」による生演奏がおこなわれ盛況のうちに幕を閉じた。



コロナ禍のベーカリーを救え 学生によるキャンパスでのパン販売 「きょうパン」

売上減少に悩むベーカリーを支援するために学生11名が団体「きょうは、パンにしようか(きょうパン)」を立ち上げ、パンを京都市内のベーカリーから自費で買い取り、大宮キャンパス、深草キャンパスでそれぞれ週1回休休みに販売した。赤いテント前には毎回学生や教職員が行列を作り、完売することもしばしば。地域のベーカリーの魅力を伝えた。

<https://kyopankyoto.studio.site/>



スポーツサイエンスコース・松永ゼミが 「日本スポーツ産業学会 会長賞」を受賞

学部共通コース(経済・経営・法・政策学部の学生がともに学ぶ教育課程)のスポーツサイエンスコース・松永敬子(経営学部教授)ゼミ生9名と教員が一体となり、2021年7月「日本スポーツ産業学会第30回大会アイデアコンペ」の題目「プロ野球活性化」「ニューノーマル時代の新たなスポーツサービス」に挑み「野球場の車いす席エリアのリノベーション」をテーマにオンライン発表。見事「日本スポーツ産業学会 会長賞」を受賞した。



第8回 関西女子相撲選手権大会 正木希さんが相撲部初の優勝に輝く

2021年8月「第8回 関西女子相撲選手権大会」が堺市大浜公園相撲場で開催され、龍谷大学相撲部の正木希さん(短大1年)が、個人戦・軽量級で創部初の優勝に輝いた。相撲部員11名中、女子部員は正木さん一人だが、その中で黙々と日々稽古に励み快挙を成し遂げた。

男子では、堤航希さん(農学部1年)が2021年9月「第46回全国学生相撲個人体重別選手権大会」の65kg未満級で3位入賞。2002年以來の快挙となった。



「全日本学生バドミントン選手権大会」 女子ダブルス優勝、女子団体準優勝など 入賞多数

「秩父宮・秩父宮妃杯争奪 第72回全日本学生バドミントン選手権大会」(2021年10月 ロートアリーナ 奈良)において、龍谷大学バドミントン部は女子団体で準優勝、女子ダブルスで植村理央さん(国際学部3年)・佐藤灯さん(政策学部3年)ペアが見事優勝に輝いた。男子団体はベスト8、シングルスでは男女ともにベスト8の結果を残した。女子ダブルスの優勝は2019年に続き2期連続、女子団体の準優勝は3期連続。



端艇部「第48回全日本大学選手権大会」 菅沼奈津美さんが女子シングルスカルで 優勝

2021年10月に埼玉県・戸田ポートコースで開催された「第48回全日本大学選手権大会」女子シングルスカルにおいて、龍谷大学端艇部の菅沼奈津美さん(文学部4年)が悲願の優勝を果たした。同部のインカレでの優勝は20年ぶり。当大会は新型コロナウイルス感染症の予防のため、無観客・オンライン配信となり、例年とは違った形での開催となったが、持ち前の持久力と勝負強さでレースを勝ち進み、優勝という栄冠を手にした。

学部長・研究科長の就任について (任期:2022.4.1~2024.3.31)

経済学部長に
小峯 敦(こみね あつし)教授を再任

法学部長に
丹羽 徹(にわ とおる)教授を選出

国際学部長に
清水 耕介(しみず こうすけ)教授を選出

経済学研究科長に
伊達 浩憲(だて ひろのり)教授を再任

経営学研究科長に
坂本 雅則(さかもと まさのり)教授を選出

法学研究科長に
橋口 豊(はしぐち ゆたか)教授を選出

国際学研究科長に
福山 泰子(ふくやま やすこ)教授を選出

09 Book Café 新刊紹介

*大学から出版助成を受けた新刊情報



龍谷大学ジェンダーと宗教研究叢書1
『真宗女性教化雑誌の諸相』*
—シリーズ近代日本の仏教ジャーナリズム第三巻—
中西 直樹(文学部教授)著
法蔵館/6,600円(税込)



日本史研究叢刊37 龍谷叢書55
『奈良平安時代史の諸問題』*
木本 好信(文学部特任教授)著
和泉書院/5,830円(税込)



龍谷叢書56
『歴史のなかの仏教』*
斎藤 信行(文学部講師)・
北島 浄光(文学部講師)編
永田文昌堂/5,500円(税込)



龍谷叢書57
『戦前期仏教社会事業の研究 第2集』*
—高石史人先生追悼論集—
中西 直樹(文学部教授)編著
不二出版/5,060円(税込)



龍谷大学国際社会文化研究所叢書第28巻
『上方落語にみられる待遇表現』*
角岡 賢一(経営学部教授)著
くろしお出版/4,400円(税込)



『都市を終わらせる』*
—「人新世」時代の精神、社会、自然—
村澤 真保呂(社会学部教授)著者
ナカニシヤ出版/3,300円(税込)



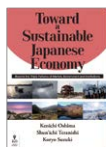
『脱領域・脱構築・脱半球』
—二一世紀人文学のために—
池末陽子(文学部准教授)共著
小鳥遊書房/5,280円(税込)



『メディアと帝国』
—19世紀末アメリカ文化学—
池末 陽子(文学部准教授)共著
小鳥遊書房/4,070円(税込)



『社会の中の企業』
—経営学史叢書第II期 第6巻 社会性—
岩田 浩(経営学部教授)共著
文真堂/1,870円(税込)



『Toward a Sustainable Japanese Economy』
—Beyond the Triple Failures of Market, Government and Institutions—
大島 堅一(政策学部教授)共編著
Impress R&D/1,760円(税込)(電子版)
/2,200円(税込)(印刷版)



『炭素排出ゼロ時代の地域分散型エネルギーシステム』

大島 堅一(政策学部教授) 編著
日本評論社/3,520円(税込)



『教職課程事務入門【4】
—「教育課程の変更届」作成のポイント—』

小野 勝士(事務職員) 著
シダイ社/2,310円(税込)



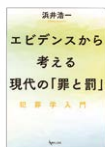
『質的調査の方法[第3版]
—都市・文化・メディアの感じ方—』

工藤 保則(社会学部教授) 共編
法律文化社/2,860円(税込)



『コンメンタール教育基本法』

丹羽 徹(法学部教授)・
寺川 史朗(法学部教授) 共著
学陽書房/6,600円(税込)



『エビデンスから考える現代の「罪と罰」』

浜井 浩一(法学部教授) 著
現代人文社/2,750円(税込)



『華嚴法界義鏡講究』

藤丸 要(法学部教授) 著
法藏館/13,200円(税込)



『歩く・知る・対話する琉球学
—歴史・社会・文化を体験しよう—』

松島 泰勝(経済学部教授) 編著
明石書店/2,200円(税込)



『事件類型別不法行為法』

若林 三奈(法学部教授) 共著
弘文堂/5,940円(税込)



『大学が地域の課題を解決する
—ポートランド州立大学のコミュニティ・ベースド・
ラーニングに学ぶ—』(日英バイリンガル版)

白石 克孝(政策学部教授)・
村田 和代(政策学部教授) 共編
ひつじ書房/3,960円(税込)



『Japanese and Finnish Development of Wellbeing and Clean Environment
-practices in Kyoto prefecture and Päijät-Häme region-』

LORC共同研究成果
服部 圭郎(政策学部教授)・
的場 信敬(政策学部教授)・
石倉 研(政策学部講師) 共著

LAB応用科学大学出版社 / <https://urn.fi/URN:ISBN:978-951-827-371-7>
(上記からダウンロード無料)



my campus

10

My Campus

マイキャンパス

「My Campus」では、龍谷大学のキャンパス風景写真を読者の皆さまから募り、ご紹介させていただきます。ご応募いただいた写真のなかから厳選の上、次号の本ページを飾らせていただきます。

是非、皆さまのお気に入りのキャンパス風景を写真に収め、奮ってご応募ください。

応募締切

2022年6月30日(木)

募集内容

龍谷大学のキャンパスを撮影した写真

応募方法

以下のフォームからご応募ください。



<https://www.ryukoku.ac.jp/about/mycampus/>

注意事項

- ・ 2022年3月以降に本人が撮影した写真に限ります。
- ・ 1点につき10MB以内のjpgファイル。
- ・ 誌面の都合上、画像は横サイズのトリミングとなります。撮影の際にはご注意ください。
- ・ 組写真、合成写真、過度の画像補正など実像に反する写真は不可。
- ・ 著作権、肖像権には十分注意してください。
- ・ 応募に係る個人情報は本事業以外には利用しません。
- ・ 応募写真につきましては、龍谷大学が広報活動のために自由に利用できる権利を許諾いただきます。

応募写真は以下から閲覧いただけます。
龍谷大学の「今」を是非ご覧ください。



<https://www.ryukoku.ac.jp/about/pr/publications/mycampus/>

タイトル「黄昏のキャンパス」

Nさん 2021年12月撮影

広報誌「龍谷」

学生の生活支援を目的とした募金

「1万円募金キャンペーン～Yell for Ryukoku 龍大生にまごころと支援を～」

コロナ禍により、様々な状況にある学生たちが、学業および課外活動に心置きなく取り組むことができるよう、精神面、経済面で応援いただく取り組み「1万円募金キャンペーン～Yell for Ryukoku 龍大生にまごころと支援を～」を実施しています。

寄付時に「学生へのエール(応援メッセージ)」を募り、Webサイトの他、学内の学生の目に触れる場所に随時掲示しています。皆さまのあたたかい応援メッセージは学生たちの大きな原動力となります。ご支援・ご協力の程よろしく願っています。

<https://www.ryukoku.ac.jp/contribution/campaign.html>



広報誌「龍谷」のデジタル版配信について

広報誌「龍谷」はデジタル版でも閲覧できます。冊子版の発送を不要とされる方は、下記のデジタル版配信申込ページにてお申し出ください。手続き完了以降は広報誌「龍谷」刊行ごとに、ご登録いただいたメールアドレスにデジタル版発行のご案内をいたします。

広報誌「龍谷」デジタル版配信申込ページ

<https://www.ryukoku.ac.jp/prdigital/>

下記URLおよびQRコードから広報誌(デジタル版)がご覧いただけます

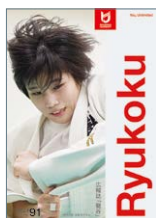
Digital Library <https://www.ryukoku.ac.jp/about/pr/publications/>



2020年No.89



2020年No.90



2021年No.91



2021年No.92

広報誌「龍谷」93号読者アンケート&プレゼントのご案内

今後のより良い広報誌づくりのため、Webアンケートにて皆さまのご意見をお聞かせください。アンケートにご回答いただいた方全員が、プレゼント抽選の対象となります。なお、ご記入いただいた感想や近況は「読者のひろば」に掲載させていただくことがあります。締め切りは2022年5月31日(火)。

応募多数の場合は抽選となります。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。読者アンケート & プレゼント応募フォーム <https://www.ryukoku.ac.jp/enquete/>



読者プレゼント



龍谷ミュージアム
オリジナルエコバッグ & 付箋セット … 5名様



経営学部藤岡ゼミ×(株)マンドリル
レトルトカレー「ぶどう山椒をかけて食べるカレー」… 5名様
※3種類のなかからいずれか1種類をお届け。

ハガキでご応募の方は、ご希望のプレゼント名を明記した上で、住所・氏名・年齢・職業・電話番号・(龍谷大学卒業生は卒業年度・学部)および広報誌「龍谷」の感想・意見、近況などを書き添えてご応募ください。

※いただいた個人情報は広報誌「龍谷」の編集以外の目的には使用いたしません。

読者アンケートのあて先

龍谷大学 学長室 (広報)
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
電話 075 (645) 7882 FAX 075 (645) 8692
E-mail: kouhou@ad.ryukoku.ac.jp

読者のひろば

社会との繋がりを積極的に作ろうとしている大学の姿勢に感心しました。
卒業生 O さん

学生の取り組みが色々とクローズアップされているので、おなじ龍大生として新鮮な気持ちで読めました。
在学生 O さん

編集委員：吉岡 祥充、本多 滝夫、松永 敬子
事務局：田中 雅子、谷 穂乃美

広報誌「龍谷」93号
2022年3月11日発行
編集：龍谷大学編集委員会
制作：龍谷大学 学長室 (広報)
発行：龍谷大学

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
電話 075 (642) 1111 (代表)
龍谷大学ホームページURL
<https://www.ryukoku.ac.jp/>





公式 Twitter 「龍谷大学広報」

twitter.com/ryukoku_univ_pr



公式 Instagram 「龍谷大学」

www.instagram.com/ryukokuuniversity



公式 Facebook 「龍谷大学」

www.facebook.com/RyukokuUniversity/



公式 YouTube 「龍谷大学」

www.youtube.com/user/RyukokuUniversity



**RYUKOKU
UNIVERSITY**